令和 7 年度　学校評価総括表　　学校名　生駒市立生駒南小学校　　所属長名　大久保智子

Ⅰ 学校教育目標　「みんな元気で なかまを思いやり みずから学ぶ子」の育成

Ⅱ 前年度に残された課題

・家庭学習を充実させ、児童の自主的な学びを促進する。
・児童が主体的に活動することで学習の面白みを知り自分から学習する力を身につけられるようにする。
・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業改善を行う。
・情報モラルの徹底と家庭への啓発を行う。
・新規のスクールボランティアを増やすとともに連絡体制を見直す。
・保幼小中で授業参観や研修、意見交換などの機会を作り連携を深める。

Ⅲ 本年度の重点課題

確かな学力の育成
①個別最適な学びと協働的な学びの充実　②基礎基本の定着　③家庭学習の充実

豊かな心の育成
④人権意識の高揚　⑤情報モラル教育の徹底　⑥規範意識の向上

健やかな体の育成
⑦外遊びや運動の推奨　⑧体育的行事や授業の充実　⑨基本的な生活習慣の定着

その他の課題
⑩地域との連携・協働　⑪保幼小中の連携

Ⅳ 来年度に残された課題

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、今後も継続して行う
・規範意識の向上や人権感覚の育成と合わせて、学びの土台としての学級作りを行う
・情報モラル教育だけでなく、デジタルシティズンシップ教育に取り組んでいく
・家庭と連携しながら児童の基本的な生活習慣を確立させ、児童自身が自分で規則正しい生活を心がけることができるようにしていく
・児童が楽しみながら体を動かす習慣を身につけられるようにする
・南小中の連携強化

〔1〕（重点課題番号）評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標	評定	[3]自己評価	評定	[4]外部アンケートの分析	評定	[5]自己評価	評定	[6]学校関係者評価
			中間評価		児童生徒アンケート / 保護者アンケート		最終評価（成果と課題） / 課題の改善策等		評価者 8人
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化		評価日 10月14日 / 公表日 10月31日 / 公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他		実施E 1月27日 / 公表E 3月4日 / 公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他 実施E 2月2日 / 公表E 3月6日 / 公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他		評価日 1月27日 / 公表日 3月6日 / 公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他		評価日 3月6日 / 公表日 3月23日 / 公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他
①	・各単元の評価テストで平均85点以上を目指す ・90%以上の児童が「授業が楽しい、分かる」と感じる授業の工夫に努める ・個に応じた指導の工夫、他者と関わり合う授業づくりに努める ・みなみプロジェクトチームと研修部が連携し、児童が主体的に学習に取り組める授業づくりを推進する	B	・具体物を使い理解しやすいよう工夫している ・できるだけ多くの実験や観察を行い実感を伴った学習ができるようにしている ・スモールステップで取り組ませ「できた」感じる機会を増やすようにしている ・みなみプロジェクトチームが中心となり教職員全体の共通理解のもと取組を進めていけるようにした		・授業は楽しいと回答した児童は84.6%だった ・授業が分かると回答した児童は94%だった ・子どもは授業に楽しく参加していると回答した保護者は81.7%だった ・子どもは授業で学習した内容が分かっていると回答した保護者は84.6%だった ・学校は個に応じた指導の工夫や他者と関わり合う授業作りに努めていると回答した保護者は72.1%だった ・学校は児童が主体的に学習に取り組める授業作りに努めていると回答した保護者は76.9%	A	・具体物を使い体験的に学べるようにしたりできるだけ実物に触れる機会を多くとったりすることで理解を深めることができた ・生活と関連した内容やゲームの要素を取り入れることにより、児童は意欲的に取り組めた ・ノートの書き方や問題のとき方を個別に指導する時間を作った ・学習の定着、深化の場面で自己調整学習の時間を意図的に設けるようにした ・自分の考えをグループで共有することで対話的な学びができた ・自ら学びに向かう児童が増えてきたように感じる ・子ども主体の授業の中で理解や学びの深さをどう作っていくのか検討が必要	・児童に学習を委ねる時間を増やし、ふり返りをしっかり行うことで自己調整スキルを発揮して学習に向かえるようにしていきたい ・児童の学ぶ意欲と基礎学力の向上を大切にしていく ・みなみプロジェクトチームと研修部が連携して学校全体で授業改善の取り組みを継続していく ・来年度も研究主題をもとに全員で研修を継続していくにあたり教員自身も主体的に学び続ける姿勢を大事にしたい	・主体的な学びや学校の在り方について、南小中が取り組もうとしていることを多くの保護者にも知ってもらうようにしていくとよい ・基礎基本を大切にし学力を充実させることも大切 ・子どもたちが自主的に考えて判断して動けるのはとてもいいと思う
②	・国語（漢字、読解）・算数（計算）の復習プリント「みなみっこ」を作成し、毎週取り組む ・児童の力やペースに合わせてデジタルドリルを活用する	C	・「みなみっこ」に取り組めない週もあった ・低学年ではデジタルドリルをたまにしか活用できなかった		（評価項目なし）		・継続して「みなみっこ」に取り組んできたが、児童の学力向上につながっているか見直しが必要 ・デジタルドリルの活用は算数が中心になっていて他の教科の活用は少なかった	B	・「みなみっこ」は実施頻度やプリントの内容を再検討し、負担になりすぎないようにするとともに、より児童に合ったものを選べるように工夫する ・デジタルドリルと紙のドリル、それぞれの良さを生かして活用する	・基本的な学力は社会人になるのにも必要であり大事にしたい ・デジタル化がどんどん進んでいく中で実際に書く、読む、人と関わるなどの経験や自然体験なども大切にしてほしい
③	・90%以上の児童が毎日家庭学習に取り組めることを目指す ・「南小家庭学習の手引き」を作成して配布し、家庭学習の大切さを児童、保護者に伝える	C	・家庭学習に対する取り組みの度合いは個人差があり、なかなか毎日取り組むことができない児童もいる ・「家庭学習の手引き」はまだ作成できていない ・児童が家庭学習に主体的に取り組めるよう工夫している		・毎日家で勉強していると回答した児童は88%で保護者の回答と大きく違っていた		・ほとんどの児童が毎日家庭学習に取り組んでいるが、継続が難しい児童もいる ・家庭学習の手引きは作成途中である ・家庭学習について教員間の共通理解が必要	B	・宿題と家庭学習について教員研修の機会を持ち検討する ・家庭学習の手引きの作成を引き続き検討する	・家庭学習の充実には保護者の協力も欠かせない
④	・85%以上の児童が「友だちの話をしっかりと聞き、相手の気持ちを考えている」 「学級で、自分らしさを大事にしていいと思える雰囲気がある。」と感じることができることを目指す ・日々の生活の中で気持ちのふりかえりと共有を重視する活動の工夫をする	B	・お互いに何でも言い合える学級作りを心がけている ・生活ふり返りを全学年で取り組み始めた		・友だちの話をしっかり聞き相手の気持ちを考えていると回答した児童は89.5%だった ・学級では自分らしさを大切にして生活できていると回答した児童は85%だった		・児童が互いの違いに気づき、理解し、認め合いともに学習や生活ができるようになってきている ・児童の人間関係作りを大切にした ・サークル対話を取り入れた ・生活ふり返りを継続することで児童のメタ認知の力が向上してきた	B	・学びの土台となる学級作りを大切にする。 ・多様性を認め合い、自分らしさを大切にできる人間関係作りを進める ・今後も生活や学習で「ふりかえり」を大切にし次につながるようにしていきたい	・相手や周りの人の立場に立って考えることのできる力も大切だと思う ・ボランティアで来た時に見かける子どもたちの様子はとてもいきいきとしていて人間関係も良いように見える
⑤	・情報モラルについて学年だよりや学校だよりで保護者への啓発を行う ・学期に1回以上、各学年に応じた情報モラルにかかわる授業を行う ・「タブレットの約束」を各家庭に配布するとともに各教室での掲示を行い適宜指導する	B	・タブレットの使用に慣れ、扱いが雑になってきている ・タブレットだけでなく個人のスマホ使用に関するトラブルもいろいろな学年で起こっており、指導が必要		・「タブレットを使う時のやくそく」を守っていると回答した児童は90.2%だった		・情報モルについての指導を継続的に行ってきたが学校で配布したタブレットだけでなく個人のスマホ使用に関するトラブルも多い	B	・外部講師も活用しながら情報モラルに関わる授業を継続的に実施する ・情報モラル教育だけでなくデジタルシティズンシップ教育についても取り組んでいきたい	・最近はスマホ関連のトラブルをよく耳にする。人間関係などに影響することもあり子どもたちの足かせになっているのではないかと心配 ・スマホの利用率と学力には関係があると思う
⑥	・教師が率先して、挨拶・掃除・廊下歩行の本質となよう心掛ける ・「みなみの約束」について、各学期初めと終わりに全校集会にて振り返り、児童の発達段階に合わせて学級指導を行う。警察などの外部講師に、SNSや児童の被害防止に関する出前授業を依頼し、啓発を行う ・公共の場でのマナーについて、長期休暇前に児童と確認しながら意識を高める	B	・挨拶はずっと継続して取り組んでいるので、自分から挨拶をする児童が増えてきている ・学校生活のきまりを守れていない児童がいる ・さわやか朝会では毎月、前月のふり返りをしてから今月のめあてを話すようにしている		・「みなみのやくそく」を守っていると回答した児童は98.1%だった		・「みなみの約束」は定期的に指導を行った ・学校生活のきまりが守れていない児童がいる ・SNSや非行防止など、外部講師を招いて出前授業を実施した。授業内容は理解していてもなかなか自分の生活と結びつけて考えることができない児童もいるので継続指導が必要 ・放課後や休日のトラブルもあり、公共の場でのマナーについて指導が必要	B	・学校生活に関するきまりについて、教職員の共通理解のもと、定期的に指導の機会を持ち児童が常に意識できるようにする ・小学校と中学校がいっしょになるにあたり、学校生活のきまりに関して小中でいっしょに検討を行い、共通理解のもと指導を行えるようにする	・子どもたちにはルールを守ることの大切さや社会生活に必要なマナーも学んでほしい
⑦	・85%以上の児童が運動や外遊びに親しめるようにする ・のびのび遊びを通じて楽しみながら運動に親しめる機会を作る	B	・学級遊びで普段外に出ない子にも外遊びをする機会を作っている ・高学年が中心となってのびのび遊びの工夫が見られる		・運動や外遊びを楽しめたと回答した児童は81.6%だった		・子どもは運動や外遊びに親しんでいると回答した保護者は72.1%で児童の回答より10%近く低かった	B	・学級遊びでは教員もいっしょに外に出て遊ぶようにした ・のびのび遊びは短い時間であるが、異学年で交流できるので外遊びが苦手な子も楽しく参加できていた	・のびのび遊びや南小ギネス、VS体育の取組は今後も継続して行い、多くの児童が参加できるよう呼びかける ・遊びながら運動に取り組めるような環境作りを行う	・学校では外遊びをする児童は多いが家に帰ると外遊びをする児童が少ないので保護者と児童の回答に差があるのかもしれない ・生涯にわたって健康に生活できるようにするためには子どものころからの運動習慣が大切だ
⑧	・「体育ノート」を活用し、授業の中でいろいろな領域の運動をバランスよく行えるようにする ・南小ギネスを各学期ごとに実施し、多くの児童が参加できるように呼び掛ける	B	・南小ギネスには多くの児童が参加している ・南小ギネスは運動があまり得意でない子も楽しめる内容になっている		（評価項目なし）		（評価項目なし）	B	・「体育ノート」を使うことで教員の得意不得意を含めた個人差に影響されにくくなり、各領域の偏りがないように指導が進められた ・南小ギネスでは「記録を狙うチーム」「楽しく参加するチーム」など目標に合わせたチームを自由に作り楽しく参加することができた	・「体育ノート」は継続して活用する ・南小ギネスは各学期に1回行う	・ボランティアに来た時、南小ギネスの練習を楽しそうにしている子どもたちをよく見かける
⑨	・早寝早起き朝ごはんについて身体測定の際に振り返りをさせる ・子どもたちが規則正しい生活ができるよう、保健だよりや学校だよりなどで保護者に定期的に呼びかける ・90%以上の児童が規則正しい生活リズムを作れることを目指す	B	・生活リズムの乱れにより朝が起きられず遅刻してくる児童がいる ・子どもたちには規則正しい生活ができるよう定期的に話をしている		・規則正しい生活ができたと回答した児童は74%で他の項目と比較して低かった		・子どもは規則正しい生活リズムができていると回答した保護者は77%で児童と同様に低かった	B	・児童だけでなく保護者や教員も「規則正しい生活」に関して課題を感じている ・保護者への啓発の機会が少なかった	・規則正しい生活リズム作りには家庭の協力が欠かせないので、保護者へも積極的に啓発を行う	・規則正しい生活ができるかどうかということにはスマホの使用の仕方なども影響していると思うので家庭と協力して指導が必要
⑩	・スクールボランティアの活動を積極的に発信し、多くの方に興味を持ってもらえるようにする ・ボランティアの登録者数を増やす ・ボランティア会議を開催し活動の在り方を検証する	B	・スクールボランティアの活動は軌道に乗ってきているがボランティアの数がなかなか増えず、活動してくださっているのはいつも同じメンバーになっている ・ボランティア会議の開催が少し遅れた		（評価項目なし）		（評価項目なし）	B	・スクールボランティアの活動をできるだけXで発信するようにした ・回を重ねるごとに児童とボランティアさんの関係が深まってきている ・新規のボランティアさんがなかなか増えないので、一部の方に負担になっていないか心配になる	・ボランティア会議を定期的に開催し、年間の活動の見通しをもって活動できるようにする ・スクールボランティア募集のお知らせを複数回行う	・スクールボランティアはなかなか新規登録が増えない。 ・ボランティアをやり始めると楽しく参加してくださる方が多いが、登録をしてボランティアをスタートすることにハードルの高さを感じる人が多いようだ
⑪	・保幼小の交流活動を年間5回程度実施する ・小中合同の地域クリーンアップ活動を実施し、小中学生の交流と地域との交流を図る ・保幼小中間で参観の機会を持ち、子どもたちの様子を交流しあう	B	・保幼小の交流は予定通り実施できている ・中学校の先生方に学習参観に来ていただく機会を作っている		（評価項目なし）		（評価項目なし）	B	・保幼小の交流事業は予定通り実施できた ・小中合同の地域クリーンアップ活動は予定通り実施できたが実際に掃除をする時間はとても短い ・小中の合同研修会を開催したりお互いの授業参観をする機会を作った ・学習参観は時間の設定が難しくあまり参加できなかった	・保幼小連携事業は継続して行う ・小中での意見交流や研修、授業参観などを企画し交流の機会を増やす	・これから本格的に南小中の義務教育学校へ移行していくにあたり、地域や保護者、子ども、学校などいろいろな意見を取り入れて進めていってほしい ・これからもますます連携を深めていってほしい ・地域クリーンアップ活動は子どもたちが自分の住む地域を知る良い機会になっている